

郵便はがき



〒四二六-〇〇二五
藤枝市藤枝四一七
大慶寺 大場正昭
FaxTel. 〇五四-六四一-二二九
〇五四-六四四-二二六
ohba@enmyozan.org

宗祖降誕八百年記念事業の進捗

返信葉書をもとにして、銀行振込、郵便振替のお宅には随時ご案内させて頂いております。返信葉書のメ切は8月31日となっております。出し忘れ等の方はお早めにお送り頂きますようお願い申し上げます。

なお、工事予定は左記のようになっています。

第一期工事

- ・ 期間 平成30年1月～6月
- ・ 工事 本堂耐震・改修工事

庫裡新築工事

第二期工事

- ・ 期間 平成31年1月～6月
- ・ 工事 客殿耐震・改修工事・屋根葺替

藤枝市の菅ヶ谷栄治様、静岡市の柴田ちる様、五十嵐千穂美様、鎌倉市の服部誠様から法話箋のお葉書代を頂戴致しました。ここに篤くお礼申し上げ、法話箋作りの資とさせて頂きます。

客殿の不思議なこと

現在の客殿は、天明8年（1788）に相良城の御殿の一部を移築したものである。数えて約230年である。

徳川第10代將軍の家治が死去すると、田沼意次（おきつぐ）は失脚。居城の相良城と御殿はお取りつぶしとなったが、その御殿が余りにも立派であったため、取りつぶすのはもったいないとして払い下げとなった。その時に、当時の岡部の庄屋さん（七百両）で御殿の



⊙今残っている4枚の内の2枚

⊕新しく入れた欄間



一部を買い取り、藤枝に運んで大慶寺の客殿として再建した。その後、時々職が必要に応じて修繕を重ねて今に至っている。直近の修繕は昭和50年前半。東海大地震が少し言われ始めた頃であるので、まだ耐震という発想は殆ど無かった。その後40年が経過して現在。

さて、この客殿に纏わる不思議なことがある。移築された時は、欄間が12枚。今残っているのは4枚だけ。いつの時か大半が無くなってしまったのである。前回の改修時、空いてる箇所（欄間）に新しい欄間を入れた。その奉納主を見ると東京都助川収蔵様、市内の三輪要様、牧田實様、上山昇様、山内ちの様な、日本特殊ボール様とある。

上記写真の如く、片や薄黒くて地味、片や派手で図柄が賑やか。そのため勘違いする人が多い。「これが御殿の欄間か」と感心する人が結構いる。「すいません。それではなく、こちらです」と改めてご案内する。いつ欄間が無くなったかはいまだに不明であるが、ある推測も実は考えられている。